



**させぼ夢大学**

発行 ● させぼ夢大学  
広報委員会  
事務局 / 〒857-0863  
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F  
TEL.0956-25-9555  
FAX.0956-25-9545  
sasebo\_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

# 夢のつづき

## させぼ夢大学会報

No.176 <2009・9>

平成21年度  
第5回

2009年 **9月16日(水)**  
アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30  
●夢のひろば 午後 6:00  
●講 演 午後 6:30

今回の講師は、TBS『情報7days ニュースキャスター』のレギュラーコメンテーターを務め、日本テレビの『世界一受けたい授業』に講師として出演するなど、多くのテレビ番組出演でお馴染みの、明治大学教授 齋藤 孝さんです。

数多くの著書のなかでも『声に出して読みたい日本語』はシリーズで260万部を超えるベストセラーとなり、新潮学芸賞を受賞した『身体感覚を取り戻す』や『三色ボールペンで読む日本語』など、タイトルを聞いただけで、よくご存じの書名ばかりです。

ご専門は教育学、身体論。教育というものを広くとらえるために、日本語の言語能力やコミュニケーション



写真提供：草思社

能力、健康法などをテーマに、身体を基盤とした心・技・体をあらゆる角度から考察し、様々な形で発表されています。

子どもたち向けの教育分野では、NHK教育テレビ『にほんごであそぼ』、フジテレビ『ガチャガチャポン』の企画・監修を務められ、小学生向けの身体技法、日本語力を育てる学習塾も主宰し、「齋藤メソッド」と呼ばれています。

また、清涼飲料水のCMに出演され、独自の体操法を披露されたのも有名です。

今回の講演でも、きっと私たちに知的な刺激を与えてくださることでしょう。どうぞご期待ください。

講 師 ● 明治大学文学部教授 **さいとう 孝氏**

テーマ ● **コミュニケーションを拡げる日本語の力**



### 次回のご案内

■と き / 10月15日(木)

■講 師 / 東京医科歯科大学名誉教授  
人間総合科学大学教授

**藤田 紘一郎氏**

■テーマ / 「イキイキ長寿健康法」  
免疫力を高める生活

●昭和14年中国・旧満州生まれ。40年東京医科歯科大学医学部卒業。東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。寄生虫博士・カイチュウ博士として知られる医学博士。長崎大学教授、東京医科歯科大学教授などを経て、現職。著書に「笑うカイチュウ」「日本人の清潔がアブナイ！」等多数。長崎県医師会医学奨励賞、日本文化振興会・社会文化功労賞および国際文化栄誉賞など受賞。

今月の講演は「第3水曜日」です。

今回の講演は70分間の予定

### 齋藤 孝氏のプロフィール

●昭和35年静岡県生まれ。東京大学法学部を卒業。同大学院教育学研究科博士課程を経て現職。専門は、教育学、身体論、コミュニケーション技法。平成13年に出した「声に出して読みたい日本語」(毎日出版文化賞特別賞)がシリーズ260万部のベストセラーになり日本語ブームが起こる。著書に「身体感覚を取り戻す」(新潮学芸賞)など多数。前文化庁文化審議会国語分科会委員。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」総合指導。TBS「情報7days ニュースキャスター」のコメンテーターとして、レギュラー出演中。





三笑亭夢之助氏

### 三行感想文 夢のとびら

■1時間半あっという間のトークと笑いの充実した時をすごしました。喋りは脳を活性化させ、ストレス解消し、又、笑いは心の健康に欠かせないものだを教えてもらいました。

早岐二丁目●江上 清美

■久しぶりにユーモアのある講演を聞かせていただきました。起承転結、さすがに落語家 三笑亭夢之助さんであると思いました。これからの人生、「夢」を持って笑いながら生きていきたいと思えます。

桜木町●原 敏朗

■シャレ(洒落、こっけいな文句)、ナンセンス(ばかげたこと)、ウイット(頓知)、ユーモア(上品で気のきいたしゃれ)、ジョーク(冗談)の笑いの5原則?を大いに笑いながら勉強させていただきました。これからは、TPOで使い分けて笑いの表現を楽しみたいと思います。

大和町●宅島富士彌

■「笑う、笑える…」楽しい時間をありがとうございました。医学的に『笑いが健康に一』と、現代社会は何でも解明しがりますが、笑えるって本当に幸せ。みんなと笑い合えてもっと幸せ。ありがとうございました。

天神町●宗 貴美枝

■まちがえて出した手紙のお話、笑いました。お喋りは5つの要点を上手に引き出して楽しく友人、知人とストレス解消したいと思います。

木風町●西 照美

■「笑」のビタミン剤を沢山いただき、元気が出ました。言葉の遣い方や介護の事など、これから先のことを考えさせられました。

上町●松尾 雅子

■かけ足入場もビ男美女の受付でイヤ?され、夢のひろばで優しくリラックス。講演も大笑いでアルファー波の脳洗浄。夏バテ気味の心身も、このエネルギー充電で再生できそう。やっぱり夢の相乗効果ですね!

比良町●岡井 真紀

■とにかく愉快だった。笑わずにはおかない師匠の話芸は素晴らしい。幅広い見地から「健康は笑いから」のテーマでの話。その見識の高さを感じた。「笑門来福」でいこう!

南風崎町●横山 春美

■久しぶりに笑いに笑いました。話し方のコツを教えてください。話しベタの私にはとても助かりました。

桜木町●原 尚子

■夢之助氏はテレビ、ラジオ、その他多方面に大活躍である。大いに笑うことで健康の維持ができそう。落語はすばらしい。

松川町●杉山源次郎

### 真夏の夜の清涼剤

西彼町 瀬戸崎 齊

三笑亭夢之助氏の講演、プロの噺家とはいえず実に素晴らしい話術であり内容であった。和服姿で、にこやかに颯爽と登壇されてから、一時間三十分、聴く者を引き付けて終始離すことがなかった。

軽妙な語り口。後半の話のなかで指折り数えつつ、詩や歌謡曲の一節を口ずさみながらお話しなされたとおりに、七五調の言葉選びと間を大切にされた話術が聴衆をとりこにするのであろう。

講演を拝聴しながら、思わず声を出して笑ってしまう場面がしばしばあったのは私だけではなかったようだ。講師の方は、どんな境遇や身分の者でも、心地よい笑いの世界へ難なく誘ってくださるのである。

「健康は笑いから」を実感させてもらった次第である。「笑いは人の薬」という言葉も耳にしますが、薬に勝る心の栄養をもらったようだ。それは、折りから真夏の夜の蒸し暑い日、爽やかなとても上質の清涼剤を頂戴したような気分いっぱいであった。

世の中には、笑えないこと、笑って見過ごせないことが多過ぎると思う。健康で楽しい生活を送るために、せめて一日に一度は心の底から笑える一時を持ちたいものである。せめて家庭団欒の中にあつてはそんな時間が必要ではないだろうか。ましてや年少の子どもがいる家庭では親と子が、家族全員が一緒になって笑う時間を持ちたいものである。『笑う門には福来たる』の諺(故事)のとおり、笑い声が満ちた、和気あいあいの家庭には、自然とみんな健康で幸せがやって来るのだと思う。老若男女だれしも、健康は何よりも大切なことである。それを維持するために食べることで

# 夢のひろば

◆ 日 時 / 9月16日(水) 午後6時00分～20分

◆ 演 目 / ピアノ

◆ 出 演 / 佐竹 典子

長崎県立佐世保南高等学校卒業  
武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業  
2006年、【モーツァルト生誕250年記念】演奏会において、佐世保市民管弦楽団と協演  
2008年、佐世保市民管弦楽団定期演奏会に招かれ、《グリーグピアノ協奏曲》を協演  
有田にて《ホワイエからの風》vol.1緑色の風ソロコンサートを開催  
福岡室内合奏団、九州交響楽団メンバーと共演等、様々な分野での演奏活動の傍ら、長崎短期大学等において後進の指導にあたる。

## ◆ 演 目

《ラプソディ・イン・ブルー》 G.Gershwin

「パリのアメリカ人」と並ぶガーシュインの代表作で、オリンピックなどのイベントにもよく登場する、アメリカ音楽を代表する1曲です。

現在はクラシック音楽として分類されていますが、かなりジャズっぽい雰囲気があり、戦前に流行した“ビッグバンド”を彷彿とさせます。

タイトルに「ブルー」という言葉が入っているとおり、哀愁のある半音階が特徴的な「ブルース」のムードを漂わせており、クラシックとジャズを幻想的に融合させた傑作といえるでしょう。ザッツ・エンターテインメント!! ちょっとレトロなジャズの気分には浸っていただけたら幸いです。



クラシックギターの演奏

# 笑いにこそ薬に勝る心の栄養

## 心に響く5文字7文字

東山町 中溝 悦美

夢の三億円、夢大学、夢の助と話の“つかみ”とやらで、すっかり聴衆をとりこにしてなんとも目が離せない。いや耳が話せない(!!)楽しい一時でした。師匠の父親への三日に一度の弟子入り願の話は有名で、何度聞いても大笑いでした。落語の世界で前座、二つ目、三つ目(真打ち)と、その間14〜15年の修業、ローソクの芯打ちからきている言葉も味があり、なる程と

講演を聴かれた感想をお待ちしています! ※締め切りは講演日の1週間後(必着)

頷けます。

とにかく話の内容が多岐にわたり、健康面での認知症と“うつ”の違い(おもしろ)、アルツハイマーと脳血管症の比率等、脳のストレス解消には喋りが一番、本当に卵2個分の栄養ですね。ジョーク、ユーモア、ウィット等の話分けもおもしろく、特に伝書鳩と啄木、九官鳥の掛け合わせの話は最高でした。夢の助さんが言われた様に、“老いたる者には知恵があり、命長き者には悟りがある”私もそんな老後を送りたいです。そこで心に響く5文字、7文字を使って“人生は笑う日もあり又感謝”夢の助さん沢山の笑いをありがとうございます!!

お喋りで脳のストレス解消  
京坪町 太郎浦 幸子

暦の上では大暑であったが吹く風は頬に涼しく感じられ、いい気分です。会場に入る。断家の細かい所作を見逃すまいと5列目の席に着き開演を待った。理事長のお話のとおり、テレビとそのまんまの三笑亭夢之助氏が予想にたがわず和服でのご登場となる。

末広亭では昭和40年代に何回となく寄席を楽しんだが、あの頃は履物は自己管理であったことを懐かしく思い出しながら楽しむことができた。真打の意味は知っていたが語源についての説明を聞くことができ、楽屋には「老いたる者には知恵があり命長き者には悟りあり」と書かれた古い色紙が今

なお飾られている由、師匠、弟子の関係は現在でも厳然たる格差社会だろうと思った。高座での持ち時間は8分程度が普通らしいが、90分という時間はあつという間に過ぎてしまった。認知症に触れられ原因不明のアルツハイマー以上に脳血管障害に因るものが多い(93%)、しかも男性に多いと聞く。このことは、女性がお喋りで脳のストレス解消の機会が多々あるのに比べ、男性は仕事に追われ生活に疲れ気味であることも一因ではないかと。「妻の口、一度はつけたい万歩計」の川柳よろしく、女性の得意なお喋りと笑いで心の健康を保ちたいものである。

話はユーモアとウィットを交えて

隆坂町 本山 正吉

和服姿で登壇した落語家三笑亭夢之助氏は、開口一番「夢大学は本当にすばらしい名前ですな」と礼賛。「三笑亭夢之助の芸名には『笑』と『夢』があり、もつとすばらしい名前ですよ」と心の中で呟いた私の声は聞こえませんでしたでしょうか。

うなぎは和食ではなく洋食(養殖)である。全くその通り。一日に10回オシッコをする。それは十尿病(糖尿尿病)、絶妙な掛け詞。さりげない顔付きで語る氏の言葉に、成程とうなずく。あいさつは自分らしい特徴の



笑いは健康の源

あるものを。近藤理事長のあいさつはすばらしいと讃える。年老いてからの運動はダンスが良い。次から次へと氏の口から飛び出してくる言葉に、満場の笑い拍手に包まれる。

入門後、前座4年間は無給。それから10年間、臥薪嘗胆。幾多の試練を乗り越え、経験を積み重ね、はじめて真打ちになる。どの世界も一流になるのは難しいだろうが、特に人々を笑わせて生計を立てる落語は、大変だろうなとつくづく思う。

変化のある人生。させば夢大学には、いろいろな分野で活躍中の講師が、交互に講演をされる。どんな話を聞かせていただけるのだろうか、期待と興味を持って臨んだ今回の講演。大変有意義で、私の期待に十二分に応えてくれた。

人前で話す機会の多い私。「ユーモアとウィット」を常に念頭に置いて、三笑亭夢之助氏に倣って話術の研鑽に努めた。



## しかまちの魅力

鹿町町 潮音院 住職  
石田 光洋

村の繁栄は、一方には青年をして迷わしめ精神を奪いつつあるを認む。次第に軽薄に流れ、言動も野卑不作法、身辺華美を好み・・・。」とあるが、いつの時代も同じ様な見方をするものなんだなあと思いつつも、当時の風儀を語る内容からいかに賑やかな町の様子だったかを窺い知ることが出来る。

しかし、エネルギー革命後この町の人口は毎年減少を続け、いまや五千数百人。当時の面影を知る人も少なくなってきた。とは言うものの、現在の鹿町だつて輝いている。

北九十九島を一望することのできる絶景の地「長串山」。平戸島に沈む夕映えは、言葉に表せないほど美しい。北松八景や県観光百選にも選ばれるこの名勝地には、十万本のツツジが植栽され春のシーズンには連日多くの人が訪れる。

夏の訪れとともに賑やかに稼働する施設がある。豊かな海と島を活用した自然体験ゾーン「海と島の自然体験館」。シーカヤックの初心者講習、ツーリングの企画、自然体験プログラム、児童生徒の課外授業等々、多くの活動が創

作される。地元海洋クラブ有志の献身的な支えは、夏の鹿町を熱く盛り上げている。

十四年前、鹿町工業高等学校の校舎建替工事中に、偶然にも良質な天然温泉が湧いて出た。温泉は近所の福祉施設や高校の学寮にも利用され、まもなく「やすらぎ館」と称す温泉施設が開設された。近隣に類を見ない良質な温泉成分ということもあり、八年経過した今でも根強い人気を保っている。棚ボタ温泉と言われようともうれしい限りだ。

国指定の支石墓「大野台遺跡」は、貴重な埋蔵文化財。縄文から弥生時代の墳墓群だが、地域の老人会が中心となって、鹿町の誇るこの文化財保存に尽力を惜しまない。

この町の魅力語るには、あまりにも紙面が限られている。残念ながら筆を置く。

戦前戦後に青春時代を過ごしていた方々に、昔の鹿町の様子を尋ねると、とても活気に満ちた町の様子を窺い知ることが出来る。町の要素には、映画館や芝居小屋、ダンスホールにお茶屋さん、食堂、酒屋にあやしいお店。たくさんの人々が道を往来し、山中といえどしっかりと山道が整備されていて、多くの人々が行き交っていたらしい。うらやましい限りだ。炭坑産業の最盛期には、二万人をこえる住民がこの鹿町の地に住んでいた。山腹に建つ潮音院の史料には、昭和二十六年春に催された説法会に、なんと千六百人の小中学生が参加している。今では想像も付かない賑やかさだ。

この炭坑による繁栄は、既然大正時代から始まっていたらしく、大正八年編集の『鹿町村郷土誌』の一説に「石炭業による



鹿町ウインドファームの風車。高台に15基の風車が回り、8,000世帯分の電力を発電している。

### 事務局のタネ



●お尋ねテレホンのご活用を！  
昨年の12月に問い合わせ専用回線「お尋ねテレホン」を増設しました。

このお尋ねテレホン(0956-25-9556)へ電話をされると「こちらはさせば夢大学お尋ねテレホンです・・・。」と、優しい女性の声で次の事項等を30秒程度で留守番電話がお応えするようにしています。ご活用下さい。

- ① 次回講演会の開催日時、講師さんとテーマ
- ② 台風・豪雨・積雪等、緊急時の開催お知らせ

### ●「夢のつづき」をお読み！

させば夢大学広報紙「夢のつづき」はその月の講演会の10日ほど前にお届けできるよう努めています。西日本地区の市民大学で事前に広報紙をお届けしているのは、どうもさせば夢大学だけのようです。

さて、「夢のつづき」の編集会議は、講演会が終了した翌週の木曜日が金曜日に開催します。ですから、その週の初めは3行感想や感想文が届くかどうか、事務局はいつも気を揉みます。しかしながら、

### 講演を聴かれた感想をお待ちしています!!

●400字詰原稿用紙1~2枚程度にまとめてお書き下さい。短文でも結構です。掲載分にはささやかですが記念品をお送りします。締め切りは講演日の1週間後(必着)といたします。感動がさめないうちになるべく早く書いてお出し下さい。  
●せっかく頂いた原稿でも、紙面の都合上掲載されない場合があります。また、一部省略させていただくこともありますので、ご了承下さい。

あて先は、〒857-0863 佐世保市三浦町4-30 松蔵ビル3F  
させば夢大学 事務局